

**"Jクラブの地域貢献活動に関する一考察
鹿島アントラーズの事例を中心に"**

**"A study on Community Services of J-League clubs :
Focusing on the case of KASHIMA Antlers"**

1K06B510

長谷 実佳

指導教員 主査 作野誠一先生

副査 木村和彦先生

【諸言】

「Jリーグは「Jリーグ百年構想 ～スポーツで、もっと、幸せな国へ。～」というスローガンを掲げ、「地域に根差したスポーツクラブ」を核としたスポーツ文化の振興活動に取り組んできた。近年では、地域貢献活動の大切さが認められ、bj リーグや四国アイランドリーグといったサッカー以外のスポーツリーグにおいても地域貢献をテーマに様々な取り組みが行われている。

本研究では、スポーツによる地域貢献活動の先駆けともいえるJリーグに焦点を当て、以下の3点について研究を行った。

1. Jクラブにおける地域貢献活動の実態を明らかにすること
2. 個別事例を取り上げ、Jクラブの文化作りにおける地域貢献活動の果たす役割について検討すること
3. 以上のことを踏まえて、Jクラブにおける地域貢献活動の現状と課題を考察すること

【研究方法】

本研究では二つの調査から、地域貢献活動の現状と課題を考察することを試みた。第一に、Jクラブの地域貢献活動の実態を把握するために、Jリーグデヴィジョン1（J1）の全18チーム（2009年現在）について文献、ウェブ及び関連資料による情報収集を行い、各クラブの取り組み状況を比較した。また、注目すべきクラブについては、さらに詳しく調べることで考察を深めた。

第二に、事例研究として鹿島アントラーズの調査を行った。先行研究でも鹿島アントラーズはプロチームが地域に出来ることで地域活性化に成功し、地域との連携がうまく取れているクラブであるといわれており、そのような事例を取り上げることで、より多くの示唆を得ることができると考えた。事例研究においては、文献・ウェブ・関連資料の検討に加え、クラブスタッフに対して面接調査を行った。

【結果と考察】

地域貢献活動の実態調査によって、各クラブが多様な形でファンクラブを実施していることが確認できた。鹿島アントラーズにおいては、鹿島アントラーズ立ち上げの基盤整備という問題に対して、住友金属、地元企業、鹿島町と周辺自治体、アントラーズが三位一体となって取り組んだという背景から、サッカーを通じて地域が一体となって盛り上げていく形が出来上がっていたといえる。Jクラブにとって集客率や勝率ももちろん大切でそれに関するマネジメントも非常に重要であるが、Jクラブが地域に受け入れられ、一緒に共存していく為に地域貢献活動は有効な活動であるといえる。

Jリーグの今後の課題は共に地域を盛り上げていこうという姿勢によって、スポーツは経済という側面だけではなく、文化というもう一つの重要な側面があることを忘れず、その地域にあった共存の仕方を全てのクラブが見出していくことである。具体的には、新規のサポーター

を取り込む為に更なる地域を盛り上げる活動を企画し、地域にスポーツ文化を定着させていくことが重要となってくる。また、サッカーを通して地域が一体となっている以上、地域を引っ張っていく役割を持つクラブそのものが、プロとしての意義を忘れずにクラブとしての強さを維持し続けることもサポーターを獲得する上では重要な要素であるといえるだろう。